館長だより

山形県産業科学館

令和６年５月１７日(金)

発行 館長　加 藤 智 一

立てば藤　座れば桜　歩く姿は針槐

その②

その①の続きです・・・・・・・・・・・・・・。

そんなニセアカシアですが、枝や幹には鋭い棘があり、結構硬い。しかも幹は大きくなるとごつごつとして、けっこう硬い。耐久性があるものの、加工が難しく、材木として使われることは少ないのです。見栄えが良くなくて棘もあるけれど、年に一度５月になると、可憐な花々で全身を飾り、甘い芳香を放ち虫たちを引き寄せる魅力があります。まるでちょっと危険な香りのする、いかした成人男性のようではないか。

みなさんは、「立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花」ということわざを聞いたことがありますか。美しい女性のことをたとえたことわざですね。なぜこれらの花が選ばれたのか。一説によれば、芍薬は、すらりと伸びた茎の先端に美しい花を咲かせ、その香りもたおやかなことから、すらっとした美しい女性そのものの印象。

牡丹は、まるで座っているかのように見え、観賞するときも座って観賞したほうがきれいに見えるらしい。

百合は、しなやかな茎の先にややうつむき加減に花が咲き、風をうけて揺れる様子は、まるで女性が優美に歩いているように見えるとのこと。

また、この３つの花は、順番に咲いていきます。牡丹は４月末～5 月のはじめ頃。芍薬は５月中旬から６月末頃。百合は６月から８月頃。それはまさに、座っている美人が立ち上がって歩き出すという流れにそっており、姿かたちのみならず、立ち居振舞いも美しいのだとか。だれがこんなこと言い出したのでしょうか。語るね～。

だったら、男性にだってその魅力を花にたとえて表現しても許されるのではないか。

私が提唱するのは、「立てば藤　座れば桜　歩く姿は針槐（はりえんじゅ）」。藤は４月下旬～5 月初め、見事な色彩と形、そして甘く芳醇な香りを放ち、長寿と繁栄を象徴する花として、多くの文化で縁起の良い植物とされており、桜は３月下旬から４月中旬、閉ざされた雪の世界から私たちを一瞬にして解き放つ美しさを持ち、咲いては散るという短い命が潔い。そして針槐（ハリエンジュ）は、丈夫で力強いだけでなく、鋭い棘で防御を怠らず、５月～6 月にかけて、甘い芳香の花を咲かせ虫たちを引き寄せる魅力を持つ。

ということで、いかがなものでしょうか。

館長の独り言

一緒にいると運気が上がりそうな人の特徴

① 笑顔が素敵でポジティブな方
② 声に張りがあり、はきはき喋る方
③ 無理せず自然体で接してくれる方
④ 人の悪口を言わない方
⑤ 周囲の人を大切にする方

こんな方ばかりいるわけないけど、そうさせられる雰囲気を自分自身が持っていたいものだと思います。